

コスモ博士の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第1回 時間と空間の概念を変える



物理学者のみなさん、こんにちは。私はコスモ博士。この動画は、世界各地の物理学者のみなさんにお届けしています。ようこそ、この動画へ！

私はあなたを知りませんが、おそらく素晴らしい科学者だろうと思います。この動画のタイトルは、「物理学革命」です。つまり、この動画でこれからあなたは、あなた自身が**物理学の革命家**になるかもしれないのです。どうです？ おもしろいと思いませんか？

あなたは、いったいこの動画はなんの意図でつくられたのかと不思議な気持ちでこれを見ていることでしょう。私はこれから、あなたにこの動画で素晴らしいことをお伝えしようと思っております。

物理学が根本的に変わる、革命的な理論をお話したいのです。

でも、あなたはまず「まさか」と思うでしょう。(無料の)動画でそんなことを学べるはずがないので、なにかの宣伝か、ろくでもないえせ宗教家かと思っているかもしれません。

でも、本当に素晴らしいことなのです。宣伝でも宗教のたぐいでもありません。これは、未成熟な人たちのたわごとや、精神世界というものと同じものではありません。

いったいなんのために、私はあなたに、この動画を見るようお願いしているのでしょうか？ 理由は4つあります。

1つ目は、あなたは**科学者**ですから、これを理解し、**応用する能力**があると信じるからです。

2つ目は、あなたは**きっとこれを基にすばらしい発見をして物理学に革命をもたらすと信じる**からです。

3つ目は、物理学が革命的な発展を遂げたら、**人類に大きな利益**があると思うからです。実現するのはずっと先だろうと思われていたことが、あっという間に実現するでしょう。

そして、4つ目は、**私**がその素晴らしい世界を早く見たいからです。

これを応用できるようになれば、**きっとあなたは**大発見**をする**でしょう。そのチャンスは大いにあります。なぜなら、あなたよりも先にこの動画を見た科学者はいるでしょうが、これを習得した科学者はまだいないからです。ですから、早くスタートしたほうがいいでしょう。

あなたはこれ以降の動画で、**革命的な理論**についてかなり学ぶことができます。

どんなふうに革命的なのか、ということをお話ししましょう。

あなたは今、高い山を越えるために、東から西へとトンネルを掘っているのだと思ってください。これが、**現在の地球の学問の研究のしかた**です。

しかし、かなり掘ったところで、どうにも進まなくなりました。科学の粋を集めて、さまざまな機械で試してみましたが、どうしてもこれ以上は西に掘り進めないのです。どうしたらいいでしょうか？

新たな科学者の部隊が、新しい機械をひっさげてまた東からやってきました。どんどん掘り進み、今度こそ西に抜けられそうです。…でも、やはりほとんど同じ位置で止まってしまいました。どうしても山を征服することができません。

それでも、やっとのことで、もう1メートル掘れました。穴がガバッと空いて、なんと向こう側に空洞があるのです。そして、そこに人が立っているのです。

あなたは驚くでしょう。「いったいどうやって、そこに立っているんですか？」

すると、その人は答えます。「いや～、私は西から掘っていたんですよ」

どうですか？ まさか西から掘るなんてことができるとは思わなかったら、これは驚きますね。

トンネルは東だけでなく、西からも掘れたのです。

あなたはこの比喻がわかりますか？ 東から西に掘り進むというのは、**時間を過去から追うこと**のたとえです。現在の学問はどれも、時間を過去から未来へと追っているのです。

では、時間を未来から考えるというアイデアを私は推奨しているのでしょうか？ いいえ。そうではありません。あなたがもし、西から掘り進んでいたら、きっともう東から掘り進むことを忘れているでしょう。ただ東が西に変わっただけのことです。

覚えておかなければならないのは、東と西は、2つが同時に存在するということです。つまり、**過去と未来は同時に存在**します。片方からだけを考えれば、それが過去であっても、未来であっても、同じ畏にはまります。もう本当の姿を見ることができないのです。

これから私がお教えしようとする理論は、**時間というものに方向性を持たせずに作り上げた理論**なのです。

もう一度言いますよ。

時間というものに方向性を持たせずに作り上げた理論です。

この理論で私がお教えしたいのは、**宇宙の構造と現象の仕組み**です。この理論は、**時間と空間に関して、まったく新しい概念**をもたらします。この理論を駆使すれば、あなたは宇宙の本当の姿がわかります。

それは、あなたが解きたいと思っている**相対性理論と量子論の融合や、統一場の理論**を

解くヒントとなるでしょう。この理論はたくさんの新しい発見のヒントの宝庫なのです。

あなたがこの動画で、革命的な大発見をしてくれることが、私の最大の喜びです。そして、人類の暮らしが革命的に変わる日を見たいのです。それだけです。

あなたがこの**物理学革命プロジェクト**に興味を持ってくれることを期待しています。
では、またお会いしましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第2回 理論開発者MJの奮闘



物理学者のみなさん、こんにちは。ドクターコスモの物理学革命の時間です。第2回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

これからみなさんは、地球の常識を超えた旅に出かけます。これからお教えすることを、先入観なく学んでいただければ、まったく世界が異なって見えるでしょう。

これから皆さんにお教えするのは、FP理論です。誰がつくったのかですって？ とりあえず、謎の男性MJとしておきましょう。あとでMJについては詳しくお話ししましょう。

さて、FP理論はいったいなにをもたらすのでしょうか。

FP理論は、すべての学問のハブの理論と言えるでしょう。つまり、根底です。もしあなたがなにかを研究するときに、根底が間違っていたら、どうなりますか？ すべてが間違っただけで進んでしまいます。それでもそれなりに進歩しますが、根底が間違っていると、いつか限界が来てしまうのです。

それは、海を知らない人が、湖を海だと思っていたようなものです。良く考えると、湖と海では生き物が違いますよね？ でも、海を知らなければそれに気づかないのです。ですから、FP理論を学ぶと、今までの学問が根底から覆っていきます。そして、まったく別の進歩を遂げるでしょう。湖から海へと移行するように。楽しみでしょうか？ 準備はいいですか？

では、これから本格的にFP理論の説明を始めましょう。

さて、FP理論は、時間に方向性を持たせずに作り上げた理論、と言いましたが、もちろん、最初からそれに気づいたわけではないのです。MJがある研究をしていたとき、難問にぶち当たり、それを解き明かしていくうちに、時間と空間の秘密に気づいたのです。それを順を追ってお話ししようと思いますが、少し長くかかるかもしれません。じっくりと落ち着いて聞いてください。では、FP理論が生まれることになったエピソードからお話ししましょう。

91年のことです。ある日MJは、アインシュタインと量子論者の論争のことを語ったテレビ番組を見ました。そこで、アインシュタインがこう言ったのを見たのです。

「神はサイコロ遊びをしない」

これは彼の有名な言葉です。もちろん、物理学者のあなたはよくご存知ですね。

ここでいうサイコロ遊びとは、気まぐれを表します。量子論では、意識が電子の動きに関係すると結論づけています。しかし、アインシュタインは、意識というあいまいなものが、電子の動きを決めるなどということはありません。意識には法則性がないからです。それが「サイコロ遊び」という言葉になっていました。

しかし、そのときMJはピンときたのです。

「意識は誰もが物理的な法則性がないものだと思っている。でも、もしかして、意識に法則性があるとしたら？」

MJは、意識の法則性をみつけるために、歴史の流れに注目しました。そして、徹底的にヨーロッパとアメリカとアジアの歴史を調べ始めたのです。

あまりにもずっと、そのことを集中して考えていたために、MJの頭の中で、歴史上の人の動きがイメージ化されました。そして、MJはそれをパターン化したのです。

動きのパターン化。この意味はわかるでしょうか。

バスケットボール、サッカー、テニス、ゴルフ、卓球というスポーツがあるとします。この中で、テニスとゴルフと卓球には、同じ動きがありますね。つまり、手に持つ道具で球を打ちます。しかし、バスケットボールとサッカーにはその動きがありません。また、卓球とテニスは、球を道具で打つと同時に、動きが伴います。しかし、ゴルフにはありません。つまり、卓球とテニスは、「道具、球、打つ、動く」がセットになります。まず、道具を持って止まる、球を持つ、道具で打つ、動く、道具で打つ、動くという順番のセットです。

MJは、歴史上の出来事をこのような動きに全部置き換えて、どの時代に何が起きたかを束にして分類していったのです。そして、研究から2年経った頃、MJは、歴史の中である大きな発見をしたのです。

それは、**歴史がある法則性を持って動いている**ということでした。MJは歴史の中に「**相似形**」という概念を発見したのです。

先ほどのスポーツの例で言えば、**テニスと卓球は相似形です。大きさが違うだけなのです。**歴史の中にも、このような相似形のパターンを見ることができたのです。

「相似形」は、時間と空間の秘密を解く鍵でした。

次回は、それについて詳しくお話しをしましょう。

さて、続きはまた次回。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第3回 歴史と地形の秘密とは



物理学者のみなさん、こんにちは。ドクターコスモの物理学革命の時間です。第3回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

さて、前回は、MJの歴史の研究について話しました。MJは、歴史を研究し始めて2年もたたないうちに**歴史が相似形という法則性を持っている**ことに気づいたのです。つまり、よく似た歴史上の出来事があちこちにあるのです。

MJはいったいなにを発見したのでしょうか。

つまり彼は、左と右の2つの国のある時代の歴史が、**そっくり同じだ**ということに気づいたのです。

<u>ビザンティン帝国</u>	アメリカ
<u>ローマ法王領</u>	イギリス
<u>神聖ローマ帝国</u>	ドイツ
<u>セルジューク・トルコ</u>	ソ連
<u>オスマン・トルコ</u>	ロシア
<u>アイユーブ朝エジプト</u>	中華民国
<u>マムルーク朝エジプト</u>	中華人民共和国
<u>アイルランド</u>	朝鮮・韓国
<u>フランス・シチリア・ヴェネツィア、イングランド</u>	日本
<u>ヴェネツィア</u>	東京

そして、時代は、左が**11世紀末から14世紀初め**、右が**19世紀後半から20世紀前半**です。

MJは、これがどれほど対応しているかをみんなに伝えたくて、いつも長々と歴史の話をするのですが、残念ながら、誰も歴史に興味を持たないため、途中でみんな眠くなってしまいます。ですから、私も物理学者の皆さんに歴史の話をするのはやめておきます。

一見したところ、右と左の国はなんの関連もないので、誰もこれらを比べたりしませんから、歴史学者も気が付かなかったのです。

MJは、この研究から、**人間の歴史にはある種の型がある**、ということに気づいたので。歴史は人の心が動かすものですから、つまり、人の心には型があるということになります。**型がもともと存在しているから、その型を繰り返してしまう**のですね。

たとえばいうならば、世界中で上映されるシェークスピア劇のようなもので、登場人物の性格やどう動くかがほぼ決まっており、あとは公演する劇場と配役を変えるだけ、というようなものです。しかし、演出家が凝り性で、時代背景を800年も先に変えるものだから、見ている人は新しいもののように感じるのですが、実はやはりシェークスピアなのです。

では、実際の**歴史の型**というのはどのようにして決まるのでしょうか？ なにが決められているのでしょうか？ 不思議なことばかりですね。気になりますね。MJはさらに考え続けました。

もしかすると、あなたは、「歴史が似ていると言っても、似ていると思うから、似ているように思えるのでは？ どこの国だって侵略したり、されたりと、似たようなことをしているでしょう？」と思うかもしれません。

いいえ。本当に隅から隅までそっくりなんですよ。ヒトラーが中世では神聖ローマ帝国の王フリードリヒ・バルバロッサと相似形ということや、フランクリン・ルーズベルトがビザンティン帝国の皇帝マニュエロス一世と相似形だと言うこともわかるんですよ！

…と言っても、歴史の説明をしなければ、これがどこまで似ているかをわかってもらえないし、歴史の説明をしまえば、みんな寝てしまう。

うーん…。なにか、このことを証明するものは、ほかにないのだろうか？

いや、別に、MJはそれを証明しようと思っていたわけではないのですが、彼はある日とても驚くべきことに気づいたので。それはなにかというと、**地形**についてでした。

そのとき、MJはある会社で働いていました。会社で地図をコピーしたときに、ハッと気づいたので。

イタリアのヴェネト平野の地形と日本の東京の地形がそっくりなのです。

MJは、**19世紀後半から20世紀前半の東京が、ヴェネト平野の中心であるヴェネツィアと同じ歴史をたどった**こと知っていましたが、その証拠がなんと、**地図**にあったのです。

ギョッ？！

MJは仕事を終えて家に帰ると、段ボール箱の資料や本棚の資料をひっくり返し、中世ヨーロッパの地図を確認しました。そして、驚くべきことを発見しました。

MJが発見した、相似形の歴史を持つ国々は、ことごとく地形までが相似形だったので。

これはいったいどういうことでしょうか？

さあ、ここからMJの本当の謎解きが始まります。**歴史が相似形の国は、地形も相似形です。**あなたがもし、このことに気づいたら、あなたはなにを発見しますか？ どんな推論をしますか？

うーん…。

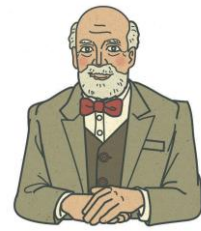
あなたの頭が謎解きにワクワクしてきましたか？

では、また次回、お会いしましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第4回 心と物質の連動の謎



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第4回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

前回までの内容はいかがでしたか？ 簡単に復習しましょう。MJは、人間の心には法則性があるのではないかと考えたのです。そして、それをみつけようと、歴史を研究し始めました。そのとき、彼は歴史上のできごとを、動きに置き換えてパターン化しました。すると、同じパターンを示す時代と、国をみつけたのです。つまり、12世紀の地中海世界と、19世紀のヨーロッパ、アメリカ、アジアの歴史が同じパターンで動いていたのです。

そして、MJは、2つの時代の対応する国をそれぞれみつけました。その一部がこれです。

中世のビザンティン帝国と、近代のアメリカ。

中世のトルコと、近代のロシア。

中世のヴェネツィア・ヴェネトと、近代の東京。

すると、それらのペアの国は、なんと、地形（国の形）もそっくりだったのです。

これはいったい、何を示しているのでしょうか？ ここからが、今日のお話しです。この原因について、あなたは考えてみましたか？

MJは、地形が同じ国を探して、歴史もそっくりだろうかと調べたわけではありません。まったく手探りの状態で、約800年のときを隔てた十字軍時代の地中海世界と、19世紀から20世紀の世界戦争の歴史が同じだと気づいたのです。

そして、歴史がそっくりなペアの国をみつけたと思ったら、その国の地形もそっくりだった、というのがポイントです。ということは、**歴史を引き起こす心の動きと、国の形というものが連動している**、ということなのです。

そもそも、国の形はどうやって決まるのでしょうか。山があり、川があるから、そこに自然の国境ができています。現在ならば、国境は確かに人間が意図的に創ることもできますが、それでも主には、人間の意識の及ばない地形でできています。

しかし、誰でもここで戸惑ってしまうでしょう。地球の地形を決めているのは、何万年もかけた地球の活動でしょう。地球の活動に人間の意識が左右されているのでしょうか？

MJは、地球の活動が人間の意識に影響しているとは考えませんでした。

もっと単純な答えこそが正しいのだろうと思ったのです。とはいえ、MJはまだ答えが出せませんでした。

また彼は、歴史の研究から、別の不思議な現象をみつけたのです。それは、時間についてです。MJは、もう一度歴史について考えました。歴史にはところどころ、変なことがあるのです。

彼はもともと高校生の時、古代ローマの歴史を授業で聞きながら、おかしな感覚を感じていました。

古代ローマの政治はとても優れています。水道橋をつくったり、元老院を持っていたり、とても進化した政治体制を持っているにも関わらず、そのあとに暗黒時代があったり、とても原始的な国王の独裁政治の時代があったりします。つまり、人間はときどき退化するのです。

また、すごく平和的だった国が、突然人が変わったように戦争ばかりを始めることがあります。このようなことがMJにはおかしなことに感じられたのです。彼には、歴史が不連続に感じられるのです。

そして、今また、歴史を調べてみても、意味がわからない行動があったりします。一つだけお話ししましょう。

1204年、第4回十字軍が起きました。それはとてもおかしなもので、イタリア・フランス連合軍は、味方であるはずのキリスト教国ビザンティン帝国を奇襲して滅ぼしたのです。そして、ビザンティンはイスラム教国トルコに逃げ、ニカイア帝国 Empire of Nicaea をつくるのです。

その地図を見てみましょう。どうですか？

MJには、中世が20世紀をまねているように感じました。20世紀では、最初からアメリカは東なのですが、中世では、アメリカのそっくりさんのビザンティンはもともと西にいたのに、わざわざ東に逃げて、日本のそっくりさんのイタリア・フランスと海を隔てて戦うのです。すると、20世紀と国の位置が同じになるのです。中世では、イスラム教国のある東にビザンティンが逃げることは大変難しいことです。本来なら、北に逃げるべきではないかと思えるのです。

これはMJを悩ませました。つまり、どう考えても、まるで中世が20世紀の動きのパターンをまねたように見えるのです。つまり、**過去が未来をまねている**としか思えないのです。

過去が未来をまねている？ そんなことがありうるのでしょうか？

しかし、ほかにもいくつか、過去が未来をまねているように見える現象が、歴史のあちこちにありました。過去が未来をまねているように見えるとしたら、それは、時間が、過去から未来へと流れているわけではない、という意味になります。これはいったいどういうことでしょうか。

MJが歴史と地形の連動を発見したのは、1997年のことでした。彼は、そこで出てきた疑問の答えを長い間考えました。しかし、確かな答えのみつからないまま、彼は歴史の研究をひとまず終わりにして、98年から次の探求を始めました。そして、最終的に彼は、7年かけて、2004年にその答えを解くのです。

ですから、皆さんも、MJがどのように答えを追い求めて、最後にそれらを統合するのかを、時間的に追ってみましょう。

MJの目的は、心がなにによって動かされているかを知ることです。量子論では、意識が電子の位置を決定すると言います。しかし、意識そのものの動きや働きがわからなければ、その仕組みは解けません。

そこで、98年から、MJは意識の探求を始めたのです。そして、チベット仏教や、夢分析、精神世界系のセミナー、自己啓発セミナーなどあらゆるものを学びに行きました。

そこでMJは、心というものがどんな働きをしているのかを知ることになるのです。

残念ながら、もう時間が来たようです。続きはまた次回にしましょう。

では、次回の動画を、必ず見てくださいね。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第5回 夢と現実の境とは

物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第5回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

前回までの復習です。MJは、歴史を研究していました。そして彼は、2つの時代に同じ歴史をたどったペアの国をいくつか見つけました。すると、そのペアとなる国は、地形も同じだったのです。

そして、また彼は、時間の不思議さにも気づきました。まるで、過去が未来をまねているように感じるのです。つまり、未来が先にあつて、過去があとに見えるということなのです。

MJは、どうやら時間は過去から未来へと流れているとは限らないのではないかと考えました。しかし、その答えはまだみつからなかったのです。

そして、答えがみつからないまま、彼は自分の心を深く見るために、心理学を学ぶことにしたのでした。

さて、「思考が現実化する」という言葉があります。量子論では、電子の位置を決めるのは意識ですから、「思考が現実化する」というのは、量子論に裏付けられているという人がいるほどです。

ですから、物理学者のみなさんには、良くも悪くもおなじみでしょう。ですから、私たちはもっと意識の構造を知らなくてははいけません。それには、心理学を学ぶしかありません。

ところで、物理学では、物質の状態を3つに分けますね。気体、液体、固体です。水の分子は少量では認識できませんが、液体の水になれば認識できます。それが氷となっても、やはり水の分子は水の分子です。物理学の世界では言うまでもないことでしょう。

しかし、心理の世界では違います。

「水蒸気は水蒸気。水は水。氷は氷。それらはまったく違うもの」というのが私たちの心のとらえ方なのです。

物理学者のみなさんには、あまり興味の無い話かも知れませんが、心理の話のひとつだ

け聞いてください。

たとえば、夫に暴力を振るわれ、耐える妻の場合、夫と妻は正反対の性格に思えます。しかし、夫に暴力を振るわれる妻は、たいがい子どもの頃に、誰かをいじめた経験があります。つまり、かつて暴力的な自分だったわけです。しかし、これは潜在意識なので、本人は気づきません。もし、このことを指摘すれば、彼女はこう言うでしょう。

「そう言われてみれば、確かに私は子どもの頃、妹が憎くて、いなくなってしまうばいい思ったことがあります。でも、妹を多少突き飛ばしたことはあっても、殴ったことはありません」

つまり、彼女の中では「殴る」「突き飛ばす」「いなくなれ」は異なるものなので、夫の殴るという行為を自分は一度もしていないと思っています。しかし、脳の中では、主語は認識できず、動きのパターンしか認識しないので、「殴る」は氷、「突き飛ばす」は水、「いなくなれ」は水蒸気と等しいのです。ですから、夫の「殴る」は、妻の「突き飛ばす」「いなくなれ」と同じなのです。

それは、水の分子が状態を変えても、どこに存在しても、水の分子であることに変わりがないのと同じです。

ですから、目の前に見えている暴力的な夫と、妻の見えない暴力性は同じものです。同じものがあるから、この妻はどうしても暴力的な夫から逃げ出せないのです。

むかしから「人は鏡」という言葉があります。

その正しい意味は、「人は、潜在意識に隠されたもう一人の自分と相似形」ということなのです。

実際に、彼女を暴力から救いたければ、暴力的な夫に働きかけても無駄です。本当は、妻の潜在的な暴力性を取り除く心理療法をすべきです。すると、なんと、夫の暴力は止まるのです。これは驚きでしょう。なぜ止まるのでしょうか？ 夫には自分の意志がなかったのでしょうか？

それを映画を使って説明しましょう。

映画インセプションは、夢の構造を知るためのとても良い映画です。主人公のドム・コブは、連れの女アリアドネとパリのカフェに座って、彼女にこう言います。

「ここから先は夢だ、とわかっている夢などない」

その言葉にハッとして、アリアドネは、「今、自分たちは夢の中にいるのだ」と気づくのです。そう、私たちは、夢の中では「今、夢を見ている」とは思わないのです。

また、夢の世界の中をアリアドネはコブと歩きながら、街行く人を見えています。

「この人たちはなに？」と彼女が聞くと、コブはこう答えます。

「彼らは俺の潜在意識の投影だよ」

もちろん、あなたも同意するでしょう。夢の中に出てくる登場人物は、すべて自分が創

りだしたものです。それは潜在意識のカケラなのです。

つまり、こういうことです。夢の中では、私たちの心はプラネタリウムの投影機のようなもので、球状の投影機の中には、自分の潜在意識が詰まっています。その潜在意識は、さまざまなことを考えています。

そして、それをプロジェクタから外側に投影します。そして、その周りの人を他人だと思って会話する夢を見ているのですが、夢の中ではそれを現実だと思っているのです。

ここまでは問題ないでしょう。しかし、「思考が現実化する」ということを同時に考えなくてはなりません。

「思考とは潜在意識のこと」で、「潜在意識とは夢のこと」ですから、つまり、「夢が現実化している」のがこの世界なのです。

思考 = 潜在意識 = 夢

とすると、**夢の世界と現実の世界は、同じ仕組みでできている**ということになります。コブの言うように、「ここから先は夢だとわかって、見ている夢はない」ので、いつの間にか「空想が現実になっている」のです。**現実とは、夢の延長なのです**。私たちはみんなアリアドネのように、自分が現実だと思っているものが、実は夢だということに気づいていないのです。では、それを正しく認識する方法はないのでしょうか。

心理の世界では、起きてもないことを起きたと感じたり、ありもしないものをあると感じて悩む人がいます。本人にとっては「確実に起きたこと」なのです。しかし、**鋭い目を持って追及すれば、半分以上がただの思い込み**なのです。

これを見ているあなたは「自分はそんな間違いをしていない」と言うでしょう。しかし、私は断言できます。**あなたの現実の半分以上は、思い込み**です。これは間違いありません。それについては、この動画を最後まで見るうちに、どんどんわかっていくでしょう。

なぜそうなるのでしょうか？

それは、私たちが今まで、現実をはっきりと定義していなかったからです。私たちは信じたいものを勝手に昇格させて「現実」と言い、信じたくないものは勝手に降格して「空想」と呼んでいるのです。そこに、基準がないのです。さらに、**顕在意識では「信じたくない」「信じられない」と言いながら、大量の潜在意識では真反対のことを考えている**のですから、自分の感覚も当てになりません。

こうして、空想と現実はいつでも混乱しています。

映画インセプションでは、結局、コブは現実に戻れたのかまだ夢の中にいるのか、最後

まで明かしません。それと同様、私たちは脳の錯覚にはまって、何が何だかわからなくなっている存在なのです。MJは、客観的に現実を空想からより分ける方法が必要だということに気づきました。それはどうしたらいいのでしょうか？

物理の世界ではわかりやすいでしょう。水の分子で考えてみましょう。空気の中の水蒸気は実感できませんが、水蒸気が大量に集まって雨になったとき、私たちはやっと水を実感できます。つまり、雨が降っている、雨が降っていないというのは、はっきり分けられます。

「私は敏感だから、空気中の水蒸気がわかる」と言う人がいたとしても、それは「雨が降っている」ことにはなりません。空気中の水蒸気と、雨を同じに扱えば、「毎日雨」ということになってしまいます。これでは不都合でしょう。晴れた日に「雨ですね」と言う人がいたら、それは「空想している」と言うべきです。

ですから、あなたが実際に雨を感じなければ、それは現実とは言えません。間接的に聞いたもの、間接的に見たものは、現実と呼ばないというルールを守るのです。

そこで、MJは次のようなルールをつくったのです。

1. 直接感覚で感知した世界 (現実)
2. 間接感覚で感知した世界 (現実未満、または空想)

つまり、思考の量が一定量を越え、直接感覚を刺激するほどになったとき、それを「現実」と呼びます。そして、彼は世界をこの切れ味の良いナイフで、ことごとく切っていたのです。

すると、見えてきたのは、とんでもない世界だったのでした。

続きはまた次回。

次回の動画を、必ず見てくださいね。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第6回 回転する時間の輪



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第6回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

今回は、いよいよ時間の仕組みが見えてくるお話です。

歴史の探求から始まって、MJは、空間が心と連動していること、そして、時間が過去から未来へ流れているわけではないことに気づいたのです。そして、心理を学ぶことによって、MJは、周りで見ている世界は、どうやら自分の夢が現実化した投影の世界だということに気づきました。ですから、周りの人たちは自分の潜在意識の影なのです。

人間関係が良くないのは、自分の潜在意識の中に、相反することを目標にした自分がいるためです。旅行したい自分と、昇進したい自分。これらは相反していますが、それに気づきません。

こうして、潜在意識の中で遊びたい自分と仕事をしたい自分が戦っているから、それが外側に影のように投影され、敵が現れるのです。それをそのままにして、周りの人を説き伏せようとしても無理だったのです。そのことを知ってから、彼は自分の潜在意識の矛盾を失くし、思考を統一するようにすると、彼の人間関係は劇的に良くなりました。

しかし、いくらこのことを実践し、効果を得ても、まだ実感はなかったのです。だって、いくら「周りの人は自分の投影」と言っても、やっぱり「あの人と自分は違う」と言いたくなるではありませんか。

どうやったら、これが心底、頭に入るのでしょうか？ 生まれたときから「周りの人と自分は違う存在だ」と思って何十年も生きたのですから、そう簡単に「いいえ、同じでした」とは思えないのは当然です。MJはそのことばかり考えていました。

そして、ある日、MJにとって生涯忘れることのできない衝撃的な事件が起きたのです。それは、2004年の12月のことでした。

ある日MJはある人にとっても腹を立てたのです。その人をEさんとしましょう。Eさんは100マイル東に住んでいました。MJは、もう「嫌な相手でも、実はそれは自分の潜在意識のカケラだ」ということを嫌と言うほど知っていました。ですから、相手に言うのではなく、自分の部屋でただ声にしてみたのです。そのセリフはこうでした。

「よくもお前の夢につきあわせたな！」

こんなに腹が立ったのは、10年ぶりだろうと思うくらい、MJは腹を立てました。そう怒鳴って、感情を発散させていた時のことです。

玄関でチャイムがなり、誰かが来ました。それは、宅配便でした。

小さな箱を開けてみると、紙が何枚も入っていて、そこにはなんと、大きな文字で、次の言葉が書いてあったのです。

「よくもお前の夢につきあわせたな！」

MJは背筋が寒くなるのを感じました。こんなセリフはそうそうあるものではありません。差出人はもちろんMJではありません。200マイル西のほうに住んでいるWさんでした。もう1年以上も会っていないWさんが、MJに悪口の紙の束をわざわざ送ってきたのです。別に彼を怒らせた覚えもなかったのです。なのに、このセリフとは？

MJは頭を雷に撃たれたような衝撃の中で悟りました。彼は、**この世界はどこを見ても、実は自分の影なのだ**ということを、雷に貫かれるように確信したのです。

MJは自分の家で、一人で東のEさんを想像して罵倒していただけです。その思考の量を水に例えれば、それはまだパラパラの雨のようなものでしょう。すると、西からバケツの水をかぶせられたのです。

こんなにもわかりやすいことはありません。関連のない2つの出来事のように思えて、実は相似形の出来事の、裏と表なのです。

MJはそのとき、むかし相対性理論の本で読んだ「光子半径上の球面」を思い出しました。光がブラックホールの重力から抜けられず、くるくると回り続ける空間。

私たちが住んでいるこの世界は、実はこの光子半径上の球面だった！

それは自分から発した光がくるくると回るので、どこを見ても自分の後ろ姿が見えるという空間です。つまり、自分を取り囲むまわりの人は、自分が発した自分の姿なのです。そのとき、MJの頭には、時間と空間の構造がはっきりと浮かび上がったのです。

時空は、回転する輪である！

心理を学んでいるとき、子どもの頃に人に思ったこと、人にしたことが、大人になってまわりまわって自分を襲うことを何度も何度も見てきました。世界が輪になっているために、過去に他人に向かって発したものが未来の自分に届いてしまったのです。この閉じられた時空の世界こそが、私たちが生きている世界だということに気づいたのです。

時空は輪になっている！ 過去に投げたものが、未来に戻ってきた。

夫から暴力を受ける妻も、子どもの頃の妹への暴力性が、今度は自分を攻撃しているのです。夫とは誰でしょう？ 妹とは誰でしょう？ それはつまり、潜在的な自分なのです。

あるときは、自分は暴力的な夫であり、ある時はいじめられる妹なのです。自分はそのどちらでもあるのです。

そして、誰でも、他人のしたことは大きく見えるのです。

そう、世界は投影なのです。つまり、自分を中心に、影のように拡大した世界が、自分のまわりに広がっているのです。

さあ、エネルギーの謎を解きましょう。

MJの心の中に赤と青の砂糖の粒がそれぞれ 500 粒ずつあると思ってください。合計 1000 個となります。自分の中ではそれらが混ざり合って、紫になります。彼は自分を紫だと思っているのです。

しかし、外側の世界は、赤だけを投影したり、青だけを投影することができます。自分の中にはないものは外側に投影できませんが、紫と青・赤は違うと思っている限り、外側と自分が同じとは思えません。こうして、周りが自分の影であることがわからないのです。

次に、量のことを考えてみましょう。

東に青 500 粒が、西に赤 500 粒が投影されているので、合計は 1000 個で、自分の中のエネルギー量と変わらないのです。

しかし、私たちはそう思えません。相手をまるっきり自分と同じ存在だと信じているので、自分が 1000 個の砂糖粒でできているならば、相手も 1000 個だと認識してしまうのです。自分の空想が、500 個の間の隙間を埋めるように広がるのだと思ってください。

それで 1000 個の粒に感じます。これは錯覚です。

そして、東を見て「あの人は青を 1000 個も持っている。私はあんなにひどくない」と思い、西を見て「あの人は赤を 1000 個も持っている。とんでもないやつだ」と思うのです。もし、あなたが青の人を外側に実在として見るならば、あなたの中の青を計算してはいけません。あなたが赤の人を外側に実在として見るならば、あなたの中の赤を計算してはいけません。

つまり、外側に出したエネルギーと、内側に残したエネルギーを足した時、それは一定の量を保っているのです。しかし、私たちはそうは思わず、外側に 2000 個を投影し、さらに自分の 1000 個を足して、3000 個が存在しているように思うのです。あなたの中には、青と赤以外の色もたくさんあります。すると、どうなるか、もうお分かりでしょう。エネルギーは無限大になってしまいます。

そう、私が言うまでもありませんが、光子半径上の球面とは、ブラックホールのまわりのことです。

あなたは「いったいどこにブラックホールがあるのか」と思ったでしょう。

実は、あなた自身が「膨大な思考」のブラックホールなのです。もともと時間差のある

思考を、時間差を無視して重ね合わせた存在なのです。思考がたまると結晶化し、それは現実化していきます。こうしてあなたという存在は、あなたのまわりの「現実世界」を生み出したのです。

さて、2004年までの探求が終わりました。いよいよ97年に戻り、歴史の謎を解きましょう。

時間は輪になっているのです。これが、歴史の相似形の謎、過去が未来をまねているように見える謎を解く鍵なのでした。

次回をお楽しみに。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第7回 脳の錯覚から抜け出す



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第7回目の動画講座に参加してくださって、ありがとうございます。

きょうは、少し戻って第5回を思い出してください。雨のたとえ話をしましたよね。

「私は敏感だから、空気中の水蒸気がわかる」と言う人がいたとしても、それは「雨が降っている」ことにはなりません。空気中の水蒸気と、雨を同じに扱えば、「毎日雨」ということになってしまいます。

さて、あなたの友人があなたに電話をかけてきました。そして、「今、雨が降っているわ。今日、ビーチのテラスでディナーを食べるのはやめましょう」と言って、雨の写真を送ってくれたのです。さて、どうしますか？ あなたはすぐに「はい。わかりました」と言うでしょう。でも、どうやって確認しましたか？

結局、あなたは、その人が信頼できる人かどうかということで判断しているのですよね。あなたをからかったり、だましたりしないということが基準になります。

しかし、「からかう、だまそうとする」というのは、相手が錯覚にはまっていないという前提の言葉ですが、もし、相手もすっかりそれを現実だと思っていたらどうでしょうか？ 誰も錯覚から抜け出せないではありませんか。

なにしろ、あなたのまわりの人は、あなたの潜在意識の投影ですから、あなたがすっかり錯覚にはまっているならば、**あなたが信頼している人だって、錯覚にはまっているのは間違いありません！** でも、今まで錯覚に気づきもしないとしたら、あなたの世界では、「混乱」が当たり前になっている可能性があります。

なんということでしょう。

この混乱から抜け出すには、どうしたらいいのでしょうか。

ということで、MJはルールを考えたのでしたね。

1. 直接感覚で感知した世界 (→現実)
2. 間接感覚で感知した世界 (→現実未満、空想)

直接感覚の世界は簡単ですね。あなたが触れるものは、それは現実と呼んでいいでしょう。間接感覚の世界は「現実」から外すのです。

多く人は、ルールを決めても自分の常識に合わないと、それに従わず「えっ、でも、そんなばかな」と考えて、ルールを破るのです。また、そのルールが自分に不利益になると、「そんなルールはもうどうでもいい」と言って、ルールを捨ててしまいます。結局、**損得で考えてしまう感情的判断から抜け出せない**のです。

MJは真実を見つけ出すために、自分の常識や不利益を考えるのはやめ、ルール通りに考えたのです。それこそが、錯覚から抜け出す道だと考えました。自分の感情的な反応を信頼してはいけないのです。

さて、なぜ直接感覚か、間接感覚を使うという差ができたのでしょうか。

それは、思考の量の違いが生むのでしたね。

思考の量が少ないから、直接感覚を使えないのです。そして、足りない感覚を空想で補っているのです。しかし、みんなそうしているので、空想で補っていることに気づきませんでした。

それをルール通りに取り除くのです。

すると、いったいどうなるのでしょうか。

たくさんものが、「現実」から外れていきます！ そう、つまり、**歴史や地形**というものも、**現実ではなくなります！** それは、「あると信じている」ものなのです。実際は、誰も歴史を見たことがないし、地形もあると思っ込んでいるだけなのです。実際に、国の形を自分の目で見た人は、おそらくいないでしょう。少なくとも、間接的に見たものを「直接感覚で見たもの」と同じ扱いをしてはいけません。

「歴史は実在しない」というと、あなたは「そんなばかな！」と言いたいかもかもしれません。おっしゃることはわかりますが、ここでは今までと違う考え方をしてみましょう。そして、次に進みましょう。

では、歴史として見えているものは、いったいどのように私たちの前に現れているのでしょうか。

もう一度、夫から暴力を受けている妻のことを思い出してください。夫という存在を創り上げているのは、妻の過去の暴力性でした。しかし、現在、この妻が暴力を振るっていないとしたら、妻の中には別のパーソナリティーがあるのです。このような、心の中のパーソナリティーを**型**と呼びましょう。

私たちの心の中には、いくつかの型があります。心理学ではこの型を使って人を分析します。5つの型に分ける人もいれば、9の型に分ける人もいます。いずれにしても、そんなに多くないのです。ところで、暴力をふるう夫は、妻の「過去の型」の投影でした。つま

り、型には時間的な差があるのです。そして、**心の中の型は、地層のように時間順に並んでいます。**

ここでは、4つの型をモデルに使いましょう。私たちの心のなかに、○、△、□、◇…といった型があると思ってください。これが時間順に並んでいます。

すると、次のようになります。(図参照)

それが、まず近代として投影されます。

そして、まるで虹のように、外側にもうひとつ投影されるのです。

こうして、中世と近代が出来上がりました。この仕組みならば、2つの時代の出来事が相似形であるのも納得がいくでしょう。もともと、心の中にある型を映し出したものが歴史だったのです。

時間は一直線ではなく、弧だったのです。そして、この弧が、らせんのようにつながっているように感じて、頭の中で時間を長い一つの直線のように感じているのです。

MJは、歴史がときどき退化するように感じていましたね。その理由もこれで解けます。歴史は一直線上のものではなく、**心の時間的な動き、つまり心の発達の道筋にある種のパターンに分類し**、それを時間軸上に投影したものを勝手に一直線だと思ってつなぎ合わせたものなのです。ですから、一部は発達どおりに並びますが、ときどき、おかしなつながりになります。**もともと歴史は不連続なのです。**

また、近代と中世の投影は、それぞれ独立して投影できます。近代を投影して観察したあとに、中世を観察してもいいのです。すると、**過去が未来をまねているように感じる**のです。

MJは、2つの時代の相似形を読み取りましたが、そのときに、彼は、それぞれの時間の長さも気になっていました。どうも、古い時代のほうがサイクルが長いのです。たとえば、ウィリアムのイングランド征服から、第4次十字軍までの間は138年です。しかし、それと相似形の出来事である日本の江戸幕府崩壊から、太平洋戦争の間は74年です。もちろん、情報の伝達や交通手段が未熟というのはひとつの理由ですが、MJは、それ以外の仕組みがあると考えていました。そして、その謎の答えを探していたのです。

時間がもし、中心から投影された弧であるならば、当然、外側の古い時代のほうが弧は長くなるので、時間の幅が広がるのです。つまり、**遠い時代ほど、なにかが長く感じる**ということになります。

物理学者のみなさんは、まだ時間が投影であることに納得がいかないかもしれませんが、納得するのは無理でも、まずは「投影だ」と思って考えてみることをおすすめします。なぜなら、投影だと考えると、さまざまな謎を解くヒントが現れるからです。

さて、時間は心の中に存在する型が投影されたものです。そして、遠くにいけばいくほど、円周は広がります。すると、どうなるでしょうか。ひとつの型が描く時間の幅が広がることはすでに説明しました。それと同時に、エネルギーが薄まってしまうのです。

中心から投影されているエネルギーを、電球にたとえましょう。物理学者のみなさんには言うまでもありませんが、部屋が広くなれば、照度は低くなります。ポイントは、部屋が広がっても、電球の光度は決して変わらないということです。つまり、2つの世界は、一つのエネルギーを使いまわしているのです。

歴史で言えば、近代と中世は、同じエネルギーを使いまわしているということになります。

しかし、私たちの脳はこれが認識できません。というのは、**あなたはいつでも直接感覚を使う世界の中で生きているからです**。ですから、Bを見るときにも、あなたは自動的にAを重ねてしまいます。これは空想なのですが、あなたはそれに気づかないまま、空想と現実を混ぜていました。

こうして、Bは、 $A + B$ と認識されるので、Aよりもすごい世界になってしまいます。

では、もし、スクリーンを10枚重ねたらどうなるでしょうか。本当は、10枚目は手探りで歩かなければいけないくらい暗いのに、あなたは1枚目から9枚目の光を足し合わせてしまい、10枚目は目もくらむばかりの輝きを持っていると誤ってしまいます。つまり、遠くに行けばいくほど、スクリーンはすごいエネルギーを持っているように思えるのです。

問題は、あなたは生まれてこのかた、直接感覚のない世界で生きたことがない、ということです。もし、遠くほどすごいエネルギーがあるように思えるとしたら、私たちは実際にどのように認識するのでしょうか。

さて、映画「インセプション」は、夢に階層があることを教えてくれるとても良い教材です。今回はそれを詳しく説明したいと思いますが、映画のネタバレになるかもしれませんので、その前にぜひ、「インセプション」を見ておいてくださいね。

では、また次回。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第8回 現象の階層構造



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第8回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

さあ、MJの謎解きを続けましょう。

前回までは、**歴史が頭の中にある心の発達型の投影**であること、それが、輪のように二重に投影されるため、出来事が相似形になるのだということを説明しましたね。そして、内側のスクリーンのエネルギーを外側のスクリーンにどんどん重ねてしまうために、外側ほど光り輝いているように思い込む、ということを話しましたね。つまり、外側ほどエネルギーが高いものが存在すると思いつくのです。

では、外側ほどエネルギーが高く感じるなら、私たちはそれをどのように認識するのでしょうか。きょうは「出来事」の認識という問題について、考えましょう。

いきなり話は変わりますが、あなたが突然、太古の時代にタイムスリップしたとします。そこには肉食恐竜がいて、あなたは逃げ場のない崖下で、恐竜に襲われています。そのとき、どうしたらいいのかご存知でしょうか？ 映画ではよくあるシーンですよ。

あなたは主人公が仲間に「動くな〜！」と言うのを見たことがあるでしょう。つまり、恐竜の目には、動くものが「生き物」ととらえられるので、動かなければ、あなたは岩のシミにすぎません。こうして、恐竜に食べられなくてすむというわけです。誰も試してみたことはありませんが。

これは、私たちの認識のしかたを教えてください。恐竜に限らず、私たちの脳は、このような、細かく分割された情報を組み合わせて、「これは生き物で、食べられる」とか、「これは岩だから、食べられない」という「意味付け」をして、認識しているのです。**生き物そのものを認識できるわけではありません。**

MJは中学生のころ、絵を描くのが好きだったので、「宇宙人だったら、この世界はどう見えるのか」ということをよく考えていました。この世界になんの意味付けも持たない目で世界を見たとき、世界はどう見えるのでしょうか。人間がいようと、旗がひらめいていようと、おそらく**色の集合体**にしか見えないのだろう、というのが彼の結論でした。

つまり、私たちの心は、現象を見ているようで、実は現象ではなく、何億もの電気信号を集めて、その情報を組み立て、それを意味付けして、それにしたがって出来事をつくりあげています。つまり、すべてのモノや現象に心に関係しているのです。

私たちは、外側に自分の意味付けとは関係のない現象があると思いきこんでいるのですが、そうではなく、ただ電気信号のようなものがあるだけなのです。しかも、それも私たちの意識で生み出したものなのです。

「意味付け」とは、心がなにかを見て、まず「これはこういうことだろう」と推測することです。しかし、そもそも最初に観察した「なにか」は、自分の思考が生みだしたものです。つまり、自分がつくったものを見て、またなにかを思い、フィードバックしているのです。そして、そのフィードバックした思いがまた積み重なって、ただの型だったものにたくさんの違いが生じていくのです。

では、その違いにルールはあるのでしょうか。

映画「インセプション」は夢の構造をわかりやすく教えてくれます。夢は階層構造になっています。映画では、ある目的を持って、コブと仲間が夢の中に入っていくのですが、それぞれ、シーンが違うのです。

第一階層 アパートの一室

第二階層 日本の城のような邸宅

そして、注目すべきは、上の階層で行われたことが、自動的に下の階層に伝わるということ。つまり、

第一階層で自分がひっぱたかれれば、第二階層にいる自分は吹っ飛びます。

第一階層で自分が浴槽に落ちれば、第二階層で自分は大洪水に遭います。

これらのシーンは、夢の研究者にとっては本当にありがたい映像で、夢をととてもよく表しています。MJが言いたいのは、弧が長くなっている階層は、出来事が大きく認識される、ということです。もちろん、映画「インセプション」は映画らしく派手にしなければいけないので、このルールが守られていないこともあります。実際の夢は、必ずこのルールになっているのです。

それはどういう仕組みでしょうか。

前回の同心円の図を思い出しましょう。

スクリーンが何重にもなっているとき、外側はエネルギーが薄く広がっているのですが、内側の濃度の濃いエネルギーを通してみるので、外側はエネルギーが高く見えるということを説明しましたね。これを、砂糖粒でたとえてみましょう。

砂糖粒を圧縮すると、あめ玉になります。さて、いまあなたは、自分があめ玉だと思っています。あなたという人は、あめ玉以外になっただけのことではないのです。というよりも、あ

め玉になったときに、「自分」という認識をするようにできているからです。

そして、遠くを見たいと思いました。すると、あなたを作っているあめ玉のエネルギーの一部を一瞬、遠くに広げます。それは、あめ玉を粉々に砕いて、砂糖粒がぱらぱらに広がってしまった世界です。

あなたは、自分があめ玉なので、まさか砂糖粒という小さな存在があるとは思わずに、その粒一つ一つを全部あめ玉だと認識してしまうのです。こうして、錯覚によって、エネルギーが莫大な量に思えます。これは勘違いなのです。

そして、莫大な量になったものに、別の名前をつけるのです。

映画では、「ひっぱたく」が「吹っ飛ぶ」になります。「水に落ちた」が「洪水に襲われた」になります。つまり、それぞれの現象は、同じエネルギーが拡大したか、縮小したかの違いなのに、名前が違う二つの現象になるのです。

もう一度復習しましょう。

一つの電球から、同じ型の影が二つのスクリーンに映し出されます。スクリーンは時空です。二つの影は当然大きさが違い、照度が違います。ところが、私たちはまわりが型の投影であることを知らず、それを別々に存在する別のものだと信じてきました。そして、別々の現象として見ています。

薄い影のほうには、自分のまわりの濃いエネルギーを重ねて見るので、濃いエネルギーがあの大きさに存在すると錯覚します。

こうして、遠いスクリーンほど、すごい現象が起きているように思えるのです。

あなたは、私が今、夢の世界のことを話しているだけだと思っているかもしれませんが。しかし、現実には夢の延長だということを思い出してください。

現実には夢の結晶です。意識がどんどんと積み重なり、型に意識のエネルギーを流し込み、それを大中小のスクリーンに投影したものが「現実」です。

私たちは**近く**の現象と、**遠い**ところの現象の**二つの現象が、一つの同じものから投影されていることを知りませんでした**。しかし、MJはこれに気づくことによって、**未来の予測が可能であることに気づいた**のです。

なぜなら、近いところにあるエネルギーが少ないとき、遠いところにはその積み重なった姿が見えているからです。電球の近くに子どもが立っているとしましょう。すると、遠くに子どもの大きな影が見えます。

その影を見れば、それが長い時間が経ったときの、子どもの姿であるとわかります。つまり、未来が遠くに映っているのです。

今日はそろそろ時間が来ました。次回は、未来の予測について詳しくお話ししましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第9回 未来の予測



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第9回目の動画講座に参加してくださって、ありがとうございます。

今回は、みなさんが楽しみにしている内容だと思います。未来は予測できるか、という話ですね。

むかし、まだMJがこんな研究をしていなかった頃、彼はニュースを見ているときに、あることに気づきました。ニュースの中では、凶悪な犯罪が毎日のように起きているように感じます。でも、自分のまわりには、凶悪な犯罪にあった人かいないのです。大災害も、彼のところとは無縁でした。「まるで、階層が違う世界に住んでいるみたいだ」とMJは思っていました。

また、歴史上でも、とんでもない残虐な話を聞きます。しかし、あなたのまわりにいる人で、いったい誰がそこまで残虐なことができるのでしょうか。それをなぜ真実だと信じられるのでしょうか？

MJは人間がそんな恐ろしいことをするはずがないと信じていたのです。つまり、私たちはなにかを勘違いしているのだと。

物理学者のみなさんには、このような人生観、人間観はあまり興味がないかもしれませんが、MJが研究をすすめていくときには、彼はこのような人間への信頼に基づいた「おかしな感覚」を頼りにしているのです。

映画「インセプション」を思い出してください。

コブが浴槽に落とされたとき、別の次元にいる彼は、大洪水に見舞われました。このように、夢の中では出来事は大げさになります。

これと同じ構造が、現実にもあるということにMJは気づいたのです。

現実の階層を思い出しましょう。

MJは、現実をまず2層に分けました。直接感覚の世界と、間接感覚の世界です。直接感覚の世界はエネルギーがあめ玉状態になっています。しかし、間接感覚の世界は、エネルギーは砂糖粒が散乱した世界です。そこでは、型の影は大きく投影されます。

大きくなると、拡大した認識となり、出来事に別の名前が付けられるために、直接感覚の世界とは異なる出来事が生じていると感じられます。しかも、それはいつも大変な出来

事なのです。

直接感覚と間接感覚の世界は次のように対応します。

<u>直接感覚</u>	<u>間接感覚</u>
「あの人が嫌い」と思った	世界のどこかで残虐な殺人事件が起きた
おなかが空いて死にそうだった	世界のどこかで飢餓のため大量に人が死んだ
自分の環境が守られていないと感じた	世界のどこかで、環境汚染が発生している
自分が心の中で浮気を考えた	世界的スターが浮気が原因で離婚した
自分がわがままにしたい	世界のどこかで自分勝手な独裁者がいる

直接感覚での思考と、間接世界での出来事は、相似形になっているのです。その現象は、次のように感じられます。

1. 何度も似たようなことが生じる、あるいは、同じようなものがたくさん生じる
2. すごく激しい、異常なレベルの出来事が生じる（すごく残虐、すごく金持ち）
3. すごく人数が多い、大量に発生すると感じる

何度も言いますが、これらは本当にただの型から投影された影なのですが、自分のまわりにある小さな投影の影が遠くに映るので、人数の拡大や、現象の激しさという拡大が生じているように思えるのです。

これから未来が予測できます。

あなたのまわりの直接感覚の世界に、あめ玉が3個あったとしましょう。それを映し出す元のエネルギーが、さらに遠いスクリーンに投影されました。すると、あめ玉3個は、粉々に砕けて砂糖粒になり、広がりました。その砂糖粒がすべてあめ玉だと錯覚するので、遠い世界はあめ玉100個の世界となるとしましょう。

遠い世界のあめ玉100個は幻想です。そう感じているだけなのです。しかし、あなたはそれをフィードバックします。

「ああ、あそこにあめ玉が100個もある世界があるんだな」

そしてそのことが心に残り、そのことばかり考えます。すると、その思考がまた積み重なってしまうのです。すると、いつかあなたの存在する直接感覚の世界でも、あめ玉が一つ一つ増えてしまい、そのうち3個から実際に100個になる可能性があります。

つまり、あなたは遠い世界に、あなたの未来に生じる可能性を見ているのです。

しかし、ただ遠いところを見れば、それがどれでもあなたの未来を映し出しているかと

いうと、そうではありません。

この世界は、思考の量に従って並んでいます。思考が少ないものは遠くに間接感覚の世界として映り、思考が多いものは近くに直接感覚の世界として存在します。つまり、思考の量は、あなたを中心に山の形になっているのです。

山を登ってくるものはあなたに近づくのでこれから来る未来となり、降りてくるものはあなたから遠ざかるので、去っていく過去となります。

さて、山の三合目にカフェがあるとします。そこで休んでいる人は、山を下りてきた人なのか、これから登る人なのかはわからないのです。では、どうすれば未来と過去を区別できるでしょうか。

単純に考えて、思考が現実化するので、三合目から十合目になるまで思考が増えれば、それは未来となります。「思考が増えるもの」とは、「思考したいもの」とイコールです。つまり、好きなものは思考を続けるので未来となり、嫌いなものは思考しなくなるので、過去となります。

この感覚で未来と過去を分けるのです。

歴史は、自分の心の発達の順番が投影され、拡大して認識されたものでした。空間も同じで、自分の心の発達が投影され、拡大して認識されたものなのです。私たちは、空間上に自分の思考の軌跡を見ることができるのです。

実際にMJは誰でも簡単に自分の未来の可能性をみつけられ、それが悪いものならば修正する、という方法を編み出しました。これをLDP (Life Decoding Procedure)と名付けて、すでに一部のの人に提供しています。これを知っていれば、もう占いは必要ありません！

さて、MJが歴史を研究していたときにみつけた地形の相似形の疑問がまだ残っています。次回は地形について、つまり空間についての話をしましょう。

では、また次回をお楽しみに。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第 10 回 フラクタル構造と重ね合わせ



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第 10 回目の動画講座に参加して下さって、ありがとうございます。

さていよいよ、空間の謎を解きましょう。…と言いたいのですが、まずは働き蜂の話聞いてください。

働き蜂を観察すると、2割の蜂がとてもよく働く。その2割の蜂だけを取り出してまた観察すると、今度は、その中のまた2割だけがよく働く…。

これは「働き蜂の法則」と呼ばれています。1000匹の蜂がいるならば、よく働くはずだった200匹の蜂を取り出すと、次第にその中の160匹は働かなくなってしまうのです。160匹の蜂は、なぜ働かなくなったのでしょうか？ 性格が変わってしまったのでしょうか？ なにかストライキを起こすような待遇の悪さがあったのでしょうか。

答えは実は簡単です。蜂は、観察者の意識の投影だからです。

よく働く2割の働き蜂を取り出しても、8割が働かなくなるのは、蜂はスクリーンに過ぎず、投影元は自分の意識の中にあるからです。自分の意識の中に、よく働く意識が2割と、働かない意識が8割あるのです。1000匹であっても、200匹であっても、それはスクリーンが拡大・縮小しただけなのです。自分の中の2割という比率が変わらない限り、スクリーンが変わってもその比率は変わりません。

蜂に意識があって、「サボってやる」と思っているわけではありません。

では、働かないという怠慢な型は、無くしたほうがいいのでしょうか？ いいえ。それはできません。人間はシーンによって適応できないといけませんから、さまざまなシーンで役割や反応が異なるようにできています。ですから、一つのシーンで全員が同じ働きをしては困るのです。ひとつの型で100%にならないように型の組み合わせが作られています。

怠慢な蜂は、頭脳労働に関しては得意なはずですが、また、戦争も嫌いですから、軍部の暴走の抑制力になります。欠点は長所です。私たちにはさまざまな機能が必要なのです。

さて、このことを頭に入れて、先を考えましょう。

MJが歴史を研究したとき、二つの時代で、同じパターンの歴史をたどったペアの国をみつけたのでしたね。

そして、そのペアの国は、地形が同じだったのです。そこには、いくつかの国の型があります。

MJは、この型が私たちの意識の機能を表していることに気づきました。それは、歴史上の国のひとつひとつに性格があるように見え、それが性格分析によるものとよく似ていたからです。そして、その型があるのは、他ならぬMJの意識の中だということにも気づきました。

蜂の話でお話ししたように、もしすべての蜂が100%よく働けば、すべての状況に対応できません。私たちが状況に合わせてうまく生きるには、いくつかの型が必要なのです。それが○△□◇…のように用意されており、その基本のカタログが、MJがみつけた国の形なのです。

つまり、型は性格を創り出します。これを順番に変えていくことによって、私たちは環境に順応し、進化し、また人生の味わいを感じる事が出来るのです。

さて、いくつかの相似系の地形の中でも、特にこの地図をよく見てみましょう。

よく似ていますね。大きさが違うだけです。これも蜂の話と同じ投影というシステムで、大きさの違いはスクリーンの大小の違いなのです。

しかし、それだけではなく、別の問題があります。

よく見ると、北アメリカとソ連の描かれた一枚の大きな地図の中のヨーロッパに、小さな地形のバルカン半島（ビザンティン帝国）とアナトリア半島（セルジューク・トルコ）が組み込まれています。

これはどういうことでしょうか？

これは、同じ型の投影を二回繰り返し、それを一枚に重ね合わせたということになります。つまり、世界地図は一枚のスクリーンなのではなく、すでに複数のスクリーンが重なってしまっているのです。ということは、**私たちが信じている「世界」は現実には存在せず、脳の中の重ね合わせで認識しているものだ**、ということになります。

これはどういうことでしょうか。

すでに歴史が投影であるという話をしましたね。時間的な奥行きに、弧の形で投影されたものをつなぎ合わせ、一つの直線のように感じていたのです。どうやら空間も同じで、空間が延々と続いたひとつながりのものであるということを疑うべきです。

ところで、蜂の話に戻しましょう。蜂の話を聞いているときには、私たちは1000匹の蜂と、200匹の蜂を重ねて計算しません。蜂の全体数は変わらないことを最初から知

っています。

しかし、時間も空間も、すでに重ね合わされたものを一つとして認識しているのです。つまり、蜂でたとえると、最初から1200匹として数えているのです。重ね合わせの回数をもっと多く、かなりの量でしょう。

ですから、実際に持っているエネルギー量よりもずっと多く見積もっているというわけです。

現実の定義を思い出しましょう。現実とは、「直接感覚で感じたもの」です。とすると、あなたの現実化している空間は、実はかなり狭いということになります。直接感覚で感じるができないのに、「存在する」と感じている空間は、実はあなたの心の中にあるだけなのです。

そう説明を聞いても、私たちは「広い空間がある」と感じてしまいます。時間は確かに確かめることが出来ないけれど、空間は確かめられそうな気がします。ギリシャと北アメリカが同じ型の投影でも、アメリカに行った後にギリシャに行けるような気がします。念のために言っておきますが、あなたの身体は一つなので、同時に存在することは絶対にできません！

あなたの世界はまるでシャボン玉のようです。あなたが動くと、そのまわりに「世界」がアワのように作られるので、あなたはいつでも世界の中心です。そして、世界がどこまで行っても続いているように感じるのです。たとえあなたが宇宙飛行士であっても、あなたが宇宙にいるときには確かにそこに空間がありますが、あなたの家はあなたの頭の中に納められた空想なのです。

しかも、フィードバックシステムのために、そのシャボン玉の内部は裏向きのミラーボールのように、鏡になっているのです。合わせ鏡になっているために、世界は無限だと感じてしまいます。そこに映っているものは、すべてあなたの内部にあるものです。

そして、小さなものを遠いと認識して、「なんという広い世界だろう！」と、子どものように目を輝かせて、その遠い世界を空想しているのです。

脳科学者は、「宇宙と自分の脳はどちらが大きいか」というユニークな質問をし、「自分の脳である」と答えます。まさしくそのとおりだとあなたもわかってきたでしょう。

私たちは自分が信じている大きな世界から、大部分を消去しなければいけません。そして、本当の大きさを取り戻すのです。

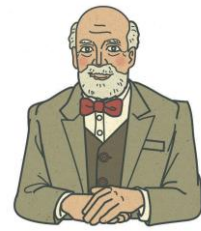
すると、あなたはどんな世界を見るのでしょうか？

では、また次回をお楽しみに。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第11回 ブラックホールの真実



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第11回目の動画講座に参加して下さって、ありがとうございます。

さて、今日は今までのところをまとめましょう。

思考が現実化しています。その思考は、ある程度貯まるとあなたの感覚を創り出します。そして、感覚があなたのまわりに山のように積み上がり、直接感覚の世界と間接感覚の世界を創り出します。これがあなたの「現実」です。

あなたはそれを感じると、自分がつくっていることをすっかりと忘れて、まるで鏡に向かってなにかを言うように、新たに何かを思います。すると、その思考が新しく生じて、かすかな点になります。それは遙か遠くにあるような気がします。そしてあなたはそれを見て、また何かを思うのです。

こうして、きりがなく遠い世界を創り出しているのです。つまりあなたは、小さな球状のあわせ鏡の中にいて、広大な世界を想像しているのです。実際にはとても小さな空間なのです。

間接感覚の世界とは、テレビやパソコンの中の出来事、人の話、本の話、装置を使ってデータを集めて推測するもの、などです。それらはまだ**思考のエネルギーが足りないから、そのレベルにしか登場しません。**

それらの間接世界の出来事は、認識するとき空想で補うためにとても大きな状態に翻訳されているので、あなた自身となんの関連もないようですが、実はあなたのまわりの出来事と相似形になっています。そして、それを思考することで、あなたはいつかそれを自分のまわりに引き寄せます。

相似形を読み取るには、MJが歴史の研究をするときにしたように、動きと属性だけをとらえるのです。それを練習すれば、外側の出来事から、自分の未来を予測することができます。

あなたは、自分のまわりの濃度が高いので、外側も濃度が高いと思いこんでいます。しかし、外側はあなたのカケラの投影です。

「あなたのまわりでは、マクロはミクロの集まりだが、あなたから遠い世界では、マクロはミクロの集まりではなく、ミクロの影である」

とMJはいつも繰り返します。つまり、間接世界で大きくみえているものは、すかすかの影なのですが、あなたはそれを、自分のまわりの世界と同じ、原子の集まりだと感じているのです。

本当は、ハリウッド映画のように、張りぼてなのです。

時間と空間は、あなたのまわりを回る輪です。そして、使う感覚の違いによって、何重かの階層を持っています。いくつかの階層は直接感覚の中にあるので、それは「現実」と呼べますが、間接感覚の世界は合わせ鏡の世界のようにきりが無く広がることができ、それはもう「現実」と呼べません。

時間と空間はそれぞれ不連続で、それぞれの階層の輪と輪はつながっていないのですが、私たちは時間さえも重ねて見るために、つながっているように思えるのです。

MJは思考と現象の関係をみつけました。それはそのまま時間と空間の関係になります。なにかを思考するということは必ず時間を使います。つまり、思考とは時間そのものです。

いま、Xというものを思考したとします。これはXを選択した、ということになります。その量はまだ少量ですので、最初、それは自分の世界の一番遠いところに影として現れます。これをXダッシュとしましょう。

次の時間にもXを思考したとします。すると、思考の量が増えるので、そのXダッシュは階層を変えて、少し近づくのです。

これを続けると、時間が経つにつれ、Xダッシュはどんどん自分に近づいています。ついには、自分の直接感覚を使う範囲にやってきて、それを体験することになるのです。さて、体験してしばらく時間が過ぎたとしましょう。そろそろそれに飽きてきました。そして、それを創り出している思考をもうやめます。

するとどうなるでしょうか。

Xダッシュは山を下りていくように、外側へ外側へと階層を変えて、今度はどんどん遠くへ離れていくのです。

思考の量だけを見ると、最初ふもとに現れ、それからだんだんと山を登り、頂上でしばらく滞在した後、ゆっくりと山を下りていきます。思考の量はこのような形になります。

しかし、ここで思いだしてください。時間と空間は輪になっています。つまり、右から現れたXダッシュは、左に消えていきますが、その左は、実は右につながっています。下から現れたXという思考は、実は上（未来）でまた繰り返されるのです。

というわけで、縦の軸で表される時間と、横の軸で表される空間は、それぞれ輪になっており、直角に交わるのです。とはいえ、水平の回転に引きずられるので、その直角は少

しゆがみます。

この関係をスープの話で説明しましょう。

ステンレスの大きなボールの中に、ポタージュスープを入れましょう。これを泡立て器で素早く水平にかき回すのです。

すると、ボールの壁のまわりは高圧になり、真ん中は低圧になります。スープは水平に回転しながら、垂直に回ってもいるのです。これは、閉じられた空間だからこうなるのです。

みなさんはすぐに銀河の形を思い出すでしょう。広大な宇宙空間にそれがあると思うのではなく、閉じられた空間なのではないかと疑ってみてください。

MJは、すべてのものは基本的にこの形になっているとみつけました。私たちの意識は真ん中にあり、流れてくる時間と空間を感じているのです。それはまるで、小さなブラックホールのようなのです。

これまで何度も言っているように、もともと、広大な世界は存在しません。ですから、宇宙は存在しません。それは、私たちの過去の意識の姿を見ているのです。意識が誕生し、それが物質を生み出す過程を、宇宙だと思って見ているのです。

それがあまりにも小さいために、それを逆に拡大して認識してしまったのです。小さいほど、認識の拡大率が大きいのです。

宇宙がなければ、当然、巨大なブラックホールも存在しません。

では、小さなブラックホールがあるのでしょうか？

MJの考えでは、ブラックホールがあるから時間と空間が回転しているわけではありません。意識は「選択」によって動きだします。しかし、元のエネルギーが一つから生じているので（一元 monism）、選択には限りがあるのです。そのため最初の選択に戻るようになり、閉宇宙となるのです。

簡単に言うと、一枚の大きな紙を切って、番号を書いてカードを作ります。そして、一枚一枚選びます。最後に選んだものの次は、最初に選んだものに戻らざるを得ません。このようなことから、私たちの世界は回転する閉宇宙になるのです。このことは、第13回目でもっと詳しくお話ししましょう。

このようにして回転を始め、それがとても速いスピードになります。その回転のラインに沿って、思考の量の山ができます。そのために真ん中に低圧が生じたように思えて、ブラックホールのように思えるとMJは言うのです。重力よりも回転が先にあるのです。

さて、今日は頭を使いすぎたかもしれませんね。ゆっくりお休みください。

そして、また次回お会いしましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第12回 相対性理論の真実



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第12回目の動画講座に参加して下さって、ありがとうございます。

この動画を見始めてから12回目です。皆さんはもう、錯覚から目覚めましたか？
今までは毎朝ニュースを見て、「ああ、世の中ではこんな出来事が…」と眉をしかめていませんでしたか？ それはあなたの意識の投影で、あなたの現実ではない、ということがもうわかってきましたか？

FP理論を学んだ人たちは、悲惨なニュースを見て「世の中はこんなことが…」などと言わなくなります。

「おや、どうも俺はこんなことを考えているらしい」と思うようになります。そして、それが好ましくない未来を引き寄せるならば、心を修正するということをするのです。すると、悲惨なニュースがだんだん生じない世界になっていきます。

おもしろい世界でしょう？

そう、ここは昔のあなたから見ると、別世界です。別次元の宇宙によろこそ。あなたはいつの間にか、次元を移動したようです！

ここはもうテレビのニュースを見てネガティブなフィードバックの輪に、はまらない世界なのです。この世界では、テレビや新聞、ネットのニュースは、あなたの潜在意識の中を覗くツールだとみんなが知っている世界なのです。

MJのまわりにはFP理論を教えた人しか存在しないので、とてもハッピーに過ごせます。過去のことを考えて被害者意識に陥って恨みごとを言う人も、テレビの中で聞いた出来事で政府の悪口を言う人もほとんどいません。あなたもぜひこの世界に来てください。

MJはもともと、人間が幸せに暮らせる方法を探して真理の探求を始めたので、FP理論を学んで多くの人がハッピーになれば目的達成なのです。

しかし、物理学者のみなさんには、ぜひ宇宙の探求、本当の世界の発見をお願いしたいと思っています。それは、ただハッピーなだけではない、本当に進化した世界を創り出ししてくれることでしょう。

さて、今日は時間の話をしましょう。思考と時間の関係です。

映画インセプションでは、夢の中の時間について、次のように説明しています。意識の深い階層ほど時間が長いのです。仮に、下のような時間になっていると思ってください。

現 実 5分
第一階層 1時間
第二階層 6日間
第三階層 2年
第四階層 331年

何度も繰り返しますが、**現実**は夢の結晶です。つまり、夢の中の構造は、必ず現実にもあるのです。

MJがこれと同じ構造を歴史上にみつけたことは、すでにお話ししましたね。ですから、この映画で言っていることは正しいのです。

しかし、よく考えると、深い階層は意識が速いのです。あなたも夢を覚えていることがたまにあるでしょう。夢ではあっという間に場所を移動したり、出来事が終わったりします。ですから、映画の中でも「深い意識の中では状態が変わりやすい。夢はすぐに崩れる」と言っています。それは意識が細かいからで、煉瓦ではなく、砂で建てた家のように。

では、深い意識のスピードは速いのに、なぜ時間が長くなるのでしょうか。短くなりそうなものですよ。

時間はいつも誤解されています。遠くに投影したものは、時間を長く感じてしまいます。

5分間の現実をつくるエネルギーが3000枚の絵だとしましょう。すると、その3000枚の紙の面積は変わらないのですが、それが下に行けば行くほど、さらに小さく相似形に分割されたものが広がっています。

カケラが小さいということは、意識が細かいということ、意識が速いということです。それは不安定で、すぐに消えやすいのです。あめ玉が砂糖粒になった状態で、ここにはまだ重力はありません。意識の複雑な意味づけがないので、回転があいまいなのです。

さて、現実の5分間のエネルギー量が、第四階層で331年に見えるのは、現在の意識を投影して時間を見積もるからなのです。

現在の意識、つまり顕在意識（表層意識）は、夢の目撃者であり、夢の翻訳者です。本来エネルギーの動きしかないものを、出来事として実況中継しているのは、顕在意識なのです。顕在意識はあまり深いところまで観察できません。海を素潜りで潜るように、潜在意識（深層意識）の海の浅いところまでしか行けないのです。

深い意識ほどエネルギーが不安定で消えやすいため、顕在意識は自分の普段の感覚から、大げさな出来事が起きているように翻訳するために、夢の中では地球最後の日が来たり、恐竜に襲われたりするのです。

宇宙空間の認識も、これと同様の錯覚に満ちています。

宇宙に見ているものは、私たちの潜在意識の歴史です。そして、脳の発達の歴史を地球の歴史に見ています。私たちの「現在」を創り出すまでの、意識の状態が映し出されているのが宇宙なのです。

本当は、一瞬に生じているものを、何十億年も長い時間かかったように思い込むのは、時間の重ね合わせによる錯覚です。

さあ、もう一度時間の錯覚について説明しましょう。あなたがなにかを思考すると、それは一枚の絵のように何かが描かれます。

そして、ある程度貯まると、それは現実を生み出すエネルギーになるのです。

今、第一階層のある地点に、思考のエネルギーとして50枚の絵が貯まっているとしましょう。50枚の絵は、標準として5秒の時間の量とします。そして、ここでは50枚の絵が横10メートルに隙間なく並んでいるとしましょう。

その円弧を拡大して、弧が50倍の500メートルになる第X階層に同じエネルギーを投影しましょう。すると、どうなるでしょうか。

円弧が50倍になっても、絵の枚数は増えませんから、範囲が広くなれば、それだけ絵はまばらになります。

つまり、第X階層では、10メートルの範囲に1枚の絵しかないのです。私たちは空間そのものを認識するのではなく、感覚を使って、それを空間だと感じているのです。つまり、50枚の絵の1枚1枚以外の隙間は認識するものがないので、**空間はない**のです。つまり、**空間は実は不連続**です。

ですから、第一階層から見て、第X階層は500メートルに見えようと、実は5秒間という体験の時間は、変わらないのです。

別の言葉でもう一度説明しましょう。

あなたは今、丸い部屋の中にいます。その壁の10メートルの範囲に絵が隙間なく掛けられています。その枚数は50枚です。しかし、よく見ると、その一枚一枚の絵の中に、とても小さな絵が一枚描き込まれているのです。つまり、小さな絵も50枚あります。あなたは壁が二次元であることを知らず、その小さな絵は遠くにあると信じています。絵が小さいのは、本当は思考が少ないからなのですが、あなたは思考によってその大きさが変わることを知らないで、同じ大きさなのにそれが小さいのは、それが遠いからだと思

い込んだのです。

そして、その絵がバラバラに存在しているので、とても大きな空間に絵があるのだらうと思っています。その幅を500メートルだと計算しました。

しかし、小さな絵と絵の間を埋めているのは、第X階層の空間ではありません。第一階層の空間が埋めているのです。

あなたにとって、空間とは10メートルにびっしりと隙間なく50枚の絵が並んだところのことです。

すると、あなたは第X階層のことを空想し、そこは500メートルの範囲なので、2500枚の絵があると勝手に想像しているのです。こうしてあなたは空間を空想で埋めました。そして、あなたの頭の中では、第X階層では5秒で500メートル（2500枚分）の空間を移動する、という認識になります。それは第一階層に比べてとてもスピードが速い世界です。

でも、ちょっと待ってください。

あなたは空間を割り増し、エネルギー量を割り増しましたが、5秒という時間は割り増ししなかったのです！

歴史を思い出してください。同じパターンを投影した二つの時間(中世と近代)では、あなたの時代から遠い時代のほうが長い時間を感じられています。これは、時間を自動的に割り増ししているからです。

歴史に対しては自動的に割り増しし、宇宙空間での時間に関しては割り増ししないというのは矛盾です。

そもそも**現実とは、直接感覚で感じたもの**でしたね。

そして、直接感覚で感じるには、思考の量が貯まっていなければいけません。ですから、たった50枚しかなければ、現実として体験するには5秒しか持続しないのです。ですから、割り増ししないのが正しいのです。

あなたは、第一階層にいたまま、第X階層を見たとき、その50倍の長さから2500枚と判断して、250秒ほどかかると感じたのです。しかし、250秒かかるはずなのに、実際には50枚の絵しか体験しませんから、結局5秒しか体験せず、時間が進まないと感じるのです。

もし、あなたが250秒かかるはずのその空間に移動したらどうなるでしょうか。その場所はあなたの「現実」となります。すると、そこは確かに250秒かかります。しかし、あなたの記憶では、そこは地上よりも時間の進まない場所です。すると今度は、地上は、あなたの場所の時間に対して50倍拡大し、12,500秒の時間が流れたように感じるでしょう。

これは、あなたが自分のまわりの直接感覚の世界から抜け出せないからで、空間が不連続ということが想像つかず、いつでも時空の濃い濃度の世界があると思いついて入っているからなのです。

もし、**50枚の絵がみんな違う絵ならば、確かにそれはスピードが速いと感じます。**それは、異なる絵の1枚1枚が、本当に1枚ではなく、それぞれ50枚あるような気がしているのです。空想が付け足されています。そして、「速い」と感じています。それは、心理学的に見れば、あなたが顕在意識（表層意識）の世界から、少し深い潜在意識（深層意識）の世界へと移動したということを意味しています。

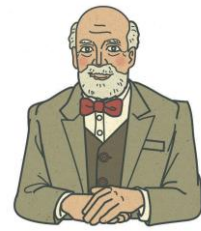
ところで、丸い部屋はあなたの脳です。あなたの脳以上の広さの空間はありません。

おっと、話が長くなってしまいました。では、また次回、続きをお話しましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第13回 宇宙の始まり



物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第13回目の動画講座に参加して下さって、ありがとうございます。

今日は、時間の始まりについてお話ししましょう。

第六回目では、MJは、まわりの人は自分自身の過去と未来であると気づいたお話をしましたね。自分の言葉が、一時間も経たずに返ってきたのです。実はMJは、この体験を一週間で二回体験したのです。

それはきっとかなりぞっとする体験でしょう。

そして、「この世には一人しかいない！」と気がついたわけです。

東洋の哲学では、これを「一元」と言います。すべてのものは、一つから生じているというような意味です。西洋のワンネスとはまったく違う概念です。

ところで、MJは、心理を長い間探求したので、それを観察するうちにおもしろいことを発見しました。被害者意識にどっぷりと浸かって、「あのとき、お父さんに虐待された」という思いから抜け出せず、人生を30年も棒に振っているような人に対して、一般的な心理療法ではそれを受け止め、癒やすのです。

つまり、「確かにお父さんが悪い！ あなたはなにも悪くない！」のです。

しかし、あなたがもしお父さんだったらどう思いますか？MJも一人の親ですから、自分にも言い分があると思うわけです。そもそも、子どもは親の何気ない一言で傷ついたり言い、何十年も恨んでいることがあります。親として一生懸命働き、たくさんのものを与えても、子どもが「あのときのお父さんの一言が…」と過去のことをいつまでも恨み、日々ぐさぐさと辛辣な言葉を投げられたらどう思いますか？

親であってもときどき子どもを殴りたくなるのは当たり前です。そして、心理療法で正式に「悪者」という烙印を押されるのです。これでは、親なんかやっつけられない…。

物理学とこれがどういう関係なのかとお思いかもしれませんが、これが**宇宙の始まりを解く鍵**になるので、もう少々おつきあいください。

MJは、そのうちにこういう人たちの心理療法を試みる立場になったのです。そもそも、この人たちはさんざん心理療法に行っており、親を悪者と認定してもらっても、一向

に良くならないのです。それで、MJは催眠療法を使って、相談者に次のように言いました。

「では、あなたがお父さんを攻撃し始めた体験に戻ってください」

すると、どうなったと思いますか？

なんと、虐待される前に戻ったのです。

そして、そのときとても良いお父さんだったのに、自分がもっとわがままな暴君でいたくて、父親を攻撃しはじめたと言うのです。

つまり、親に最初に暴力をふるったのは自分だった、と気づくのです。それがたとえ一歳の赤ちゃんの時の記憶であっても、心の中で親を攻撃していたのは自分だったと知のです。

これに気づくと、相談者はあっという間にトラウマから抜け出し、まるで夢から覚めたように人生を変えていけるのです。

MJはこれを何度も何度も体験して、ある結論に至りました。

結局のところ、どんな被害者であっても、催眠療法で「あなたは加害者ですね」と言うと、「はい。加害者なんです」と言うのです。すると、バランスが取れて、山の波と谷の波が打ち消し合うように、現象が消えるのだということに気づきました。

この世界は夢の現実化なので、**自分が被害者になるには、心の中で加害者を演じなくては、現実の世界に加害者が登場しません。**ですから、被害者は必ず心の中に加害者の部分を持っています。そして、どちらが表に出るかという問題なのです。

もともと、**現実**は夢の延長ですから、「思ったこと」と「行動したこと」の区別がないのです。ですから、「思っただけで、実際には行動していません」というのは夢の中では意味がありません。

さて、物理学の話に戻しましょう。

東洋には一元と二元という考え方があります。世界はもともと一元だったが、二つのものが生じて、それから世界が始まったというのです。つまり、この世界は二元の世界なのです。

さて、被害者と加害者はセットです。現象として出ているのは被害者の自分であっても、心の中には二つが混在しています。つまり、現象界から潜在意識の中に戻ってくるとき、つまり、夢を見ているとき、自分は加害者と被害者の両方なのです。MJはこれに気づいて、心理療法に利用したのです。

さて、意識が世界を創り出します。

ですから、このことから宇宙の始まりは次のようになります。

1. 一元という、まだなにも生じていない潜在的なエネルギーがあった
2. そこで、なにかを意識した。
3. すると、二元の世界になった。
4. そのとき、「自分」と「自分でないもの」が分かれた
5. 外側に小さいものを見て、自分を大きいと認識した（小さい、大きいという認識はひとつの例です）
6. それがすぐに消滅して、一元に戻った
7. 二元から一元に戻るわずかな瞬間に、「小さい・大きい」がひとつに混ざった
8. 一元に完全に戻ったとき、それは消えた
9. また二元になるときに、二つが混ざった瞬間を通り、自分が小さいのか、大きいのかわからなくなった
10. すると、二元の中で再び「大きい」位置に生じたが、「あれ？ 小さいんだっけ？」と思ったために、さらなる「大きい」ものを想像した（大大）
11. すると、反対側にさらなる「小さい」ものが見えた（小小）
12. 6に戻り、これを繰り返す

このようなルートで、宇宙は成長していくのです。それは胚が分裂していくのと相似形です。

つまり、「大」「小」「大小」「大大小」「小小大」「大小大大」「小大小大」…。このようなわずかな分量の差で世界が分岐していきます。まるで、球状に枝を広げる木のように、二本ずつ枝分かれしていくのです。

もちろん、まだここに時間はなく、これは一瞬です。一瞬にして複雑な構造が生まれていきます。

しかし、必ず左右対象となり、エネルギーのバランスは等しくなります。二元は一元から生じているので、すべてが溶け合ったら消滅するようにできています。それを生み出したのはあなたなので、極大と極小は、必ず自分を中心に同じ広がり広がっているのです。

宇宙は二つの選択から始まり、それからたくさんの選択肢を生み出しますが、それは深い意識の中の活動です。私たちの顕在意識（表層意識）が発達してはじめて、世界を認識できるようになります。

顕在意識は常に、すでに生み出された現象の海の中で目覚めます。そして、世界を認識し始めるのです。

今、ビッグバンから地球の有史以前までの歴史をあっというまにお話ししました。気づきましたか？ 瞬きするほど一瞬でしたね。念のために繰り返しておきます。

宇宙は二つの選択から始まり、それからたくさんの選択肢を生み出しますが、それは深い意識の中の活動です。私たちの顕在意識（表層意識）が発達してはじめて、世界を認識できるようになります。

顕在意識は常に、すでに生み出された現象の海の中で目覚めます。そして、世界を認識し始めるのです。

今回は続きをお話しましょう。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第14回 時間の創造

物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第14回目の動画講座に参加していただき、ありがとうございます。

さて、前回の続きとして、時間について考えてみましょう。顕在意識が目覚めたところからですね。顕在意識は、すでに生み出された現象の海で目覚めました。それをどのように認識するか、そして、その認識がフィードバックを開始します。

現象の海は選択の海なのです。なにかを選択すれば、他のものは選択できません。すべてを同時に選択するということは、極小と極大が足し合わされてすべてが一元に戻ってしまい、「存在しない」ということだからです。

選択とは部分を選ぶことであり、そこから時間が生じるのです。

もう一度、繰り返します。

大、小という単純な選択から始まり、微妙な量の違いによって複雑化したものがどんどん生み出されます。しかし、そこにはまだ時間が生じていないのです。

ところが、顕在意識が誕生するほど複雑化したとき、顕在意識がそれを見てフィードバックを始めます。このときはじめて、時間が動きだすのです。

顕在意識の役割は、部分しかとらえられないということです。潜在意識は際限なく広く深いのですが、顕在意識はワーキングメモリのようなもので、限りがあります。そのため、一つ選んで、他を捨てなければならず、そのことから「時間」が生じるのです。時間は部分を認識してはじめて生じます。すべてが同時に生じていれば、それは「存在」とは言えません。

今、ここに12つの選択肢があるとしましょう。1～12の順番にそれを選択し、体験したとします。すると、12が終わったとき、自動的に1に戻るのです。そのとき、かつて1を選択したことはもう忘れていたので、いつまでも広い世界にいるように感じます。こうして時間は輪になるのです。

その意識の発達の状態を、私たちは歴史に見ます。最初、平坦だと思っていた地球が、実は丸かった、と認識しているのです。それは12から1に戻った瞬間です。あなたは地球が本当に丸いと確かめてはいないでしょう？

MJによれば、世界は、魚眼レンズで見たような形をしています。自分から遠いところは、空間が急に縮まっているのです。空間は「折りたたまれて」います。あなたがそこにいったときに、それは広がるのです。そして、あなたの後ろが折りたたまれました。それで、私たちは地球が球であるような気がしています。

あなたは地球の写真を見るでしょうが、それとあなたの足下の地面は関係がありません。あなたは本当にあの写真の上を歩いているのですか？

フラクタル物理学の創始者であるマンデルブロー博士のマンデルブローセット (Mandelbrot Set) は、時間と空間の関係を説明する良いツールです。

一度 YouTube で検索して、動画をご覧ください。とても美しい画像が流れます。これは、一つの数式で創り上げた画像です。

MJはその画像のいくつかのパターンに名前を付けました。あるものは「黒雪だるま」、あるものは「タコ足」、あるものは「巻き貝」です。

あなたは最初に画面の真ん中に「黒雪だるま」を見ます。そして、しばらく時間が経つと、画面は「タコの足」になります。そのとき「黒雪だるま」は消えてしまいます。しかしそれは、次に出てくる「巻き貝」の真ん中に隠れています。

もし、まだなにも見えていないとしても、「巻き貝」をじっと見ていれば、いつか「巻き貝」の中から、「黒雪だるま」が出てくるのです。

さて、今「タコ足」を見ているならば、「黒雪だるま」はすでに過去です。そのとき、「黒雪だるま」は思い出になっています。そして、よく見ると、「タコ足」の端には小さな「巻き貝」があります。もしあなたが、まだ小さな「巻き貝」のところへと移動し、そこをじっと見てみると、あなたはそのうち小さな「黒雪だるま」を見つけるでしょう。

もしあなたが移動しなければ、真ん中に「黒雪だるま」が登場するのは、ずっと後なのです。

実際に私たちはこれを体験することができます。具体的な例を挙げましょう。

MJが20歳のとき、ローマに旅行に行きました。そのとき、乞食のふりをした三人のインド系の小さな女の子たちに、財布からお金を抜き取られてしまいました。そのとき、MJはもちろんショックを受けました。金額はわずか100ドルでしたが、人生で初めて、泥棒に遭ったのです。なぜこんな目に遭ったのでしょうか。

MJがFP理論の土台となる研究をするうちに、この理由がわかったのです。彼は過去の自分と出会ってしまったのです！

MJが8歳くらいの子どもの頃、お小遣いが欲しくて、お母さんのお財布からお金を1, 2ドルほど、盗んだことがあるのです。しかし、みつかってしまったので、それで終わり

ました。

それが、12年経って100ドルを盗まれるということを引き起こしたのです。イタリアは、MJにとって「タコ足の巻き貝」で、12年前の過去と出会う場所だったのです。つまり、わざわざ「巻き貝」に移動したために、そこで小さな「黒雪だるま」に出会ったのです。

しかし、もしイタリアに行かなければ、もっと後に、もっと大きな「黒雪だるま」に出会い、もっと多くのお金を盗まれたことでしょう。

このことをよく考えると、自分の過去に出会いたければ、海外に行けばいいのです。また、それは同時に未来に生じる出来事を先に体験することでもあります。つまり、私たちが飛行機に乗って海外まで移動するとき、それはタイムマシンに乗るのと同じように過去や未来に行っているのです。

現在なにを体験するかは、すでに決まっています。あなたが思考したものが、一定の量に貯まったときに目の前に現れるからです。

しかし、あなたがもし過去を変えたければ簡単です。遠くに行くよりも、あなたの潜在意識の中に戻ればいいのです。そして、選択を変えます。すると、しばらくすると現実がすっかり変わります。それは数式に代入する数字を変えたようなものです。

すると、あなたに生じるはずだった出来事は、遠くにいる誰かに生じたような話を聞くでしょう。

もちろん、あなたはそれが自分の選択と関係があるとは知らないでしょう。

あなたがいつもするはずの選択を変えたとき、あなたは宇宙を乗り換えたのです。つまり、他人と自分は選択の違う存在であり、その存在のことを一部の物理学者は「パラレルワールドの自分」と呼んでいます。

それは、あなたのまわりにいる人たちのことなのです。あなたは決して、他人の目を持って宇宙を見ることはできません。ですから、それはあなたとは違う宇宙と言えます。

あなたはタイムマシンで過去や未来を見に行くこともできるし、パラレルワールドに乗り換えることもできます。

「そんなばかな。そんなごまかしのタイムマシンではなく、本当の過去に行きたい」とあなたは思うかもしれません。

でも、よく考えてください。あなたがなにかを体験するときには、それだけの思考の量が必要です。つまり、あなたに認識されるほどの思考の量がなければ、それはあなたの直接感覚の世界にやってきません。

直接感覚で認識されるまで長いあいだ思考したならば、それはあなたの現在となってい

るはずです。

つまり、あなたが現代にいる限り、それは現代として認識されます。

たとえて言うと、あなたが白を体験したいと思っても、あなたが黄色のサングラスをかけている限り、あなたのところにやってきた白は、必ず黄色に染まってしまう。

つまり、あなたが会いたかったミケランジェロは、現代の天才建築家でしょうし、あなたが見たかったアレクサンダー大王の遠征は米軍が遠征に行くのを見ることになるかもしれません。

また、あなたはどうしても宇宙人に会いたいと思ったとしましょう。

しかし、宇宙人は、あなたから遠いから「宇宙人」なのであって、あなたのそばに現実化したら、それは宇宙人ではありません。地球にいればそれは地球人なのです。ただ、「まともな地球人とは思えない…」とあなたが日頃思うような人が、宇宙人の現実化かもしれません。

このように、私たちがなにかを望んでも、それは、その**エッセンスが現実化する**のであって、それそのものが現実化するわけではないのです。この世界は意味づけで認識されているので、あなたが望んだものの意味が現実化するのです。

では、今回はこのへんで終わりにします。次回は最終回です。お楽しみに。

Dr. Cosmo の物理学革命

物理学者のための…物理学革命へのいざない

第15回 新しい科学のために

物理学者のみなさん、こんにちは。コスモ博士の物理学革命の時間です。第15回目の動画講座に参加してくださって、ありがとうございます。

今まで、物理学の謎を解くのに役立つような、FP理論の考えかたをお話ししてきました。今回はそのまとめと、書き切れなかったヒントをお伝えしたいと思います。

まず、世界はみなさんが思っているほど大きくないということです。世界はすべて、あなたから発信しています。あなたが空間を作り出しています。

もし、あなたが左から右に流れる光を見たいなら、あなたは自分という観察者と光のスタートと終点を結ぶ扇型の空間を作り出す必要があります。つまり、結局のところ、あなたが光を発信しているのです。

また、星の光を観察するとき、光が大きくなることによって、それが近づいていると感じます。しかし、星は宇宙空間を動いているわけではありません。それは思考のかすかな残像であり、壁のシミなのです。

あなたは直接感覚の空間を作り出します。これは「実」の世界です。そのまわりはまだ直接感覚を使えないくらいの思考の量しかない間接感覚の世界です。これは「虚」の世界です。しかし、さらにフラクタルに投影されて何重にも重ね合わせることができます。こうして、世界は広く感じますが、それは空想と同じなのです。

あなたが中心になって世界を投影しているので、世界は必ず球（部分）になります。この世界は必ず曲線になっており、ここには直線は存在しません。これは重力のせいではなく、すべてが自分から発しているというルールのためなのです。

時間も同様で、そんなに長い時間は存在しません。

時間もフラクタルに投影された輪をらせん状につなげて、長い時間だと認識しているのです。一元から二元が生まれ、分岐を繰り返し、あなたの顕在意識が生じるまでの時間が、過去として何重にも投影されています。それを137億年と考えているのです。本当はあつという間の時間です。

時間も空間も遠くのものほどカケラになるので、拡大率が高くなり、あなたは大銀河があると勘違いをしてしまいます。それは極小の過去の思考です。

一元から二元が生まれ、そこに選択が生じます。また一元に戻る途中で、二元は融合し、「自分」がどちらかわからなくなります。すると、次に、二元に戻ったとき、入れ替わります。これを何度も繰り返すことによって、微細な量の違いで世界の違いが作られていきます。そして、大量に選択肢が生まれたとき、それを顕在意識が認識を始め、世界に時間と空間が生じていきます。

たとえば、あなたが白になりたいければ、自動的に黒が生じます。もし7になりたいときには、自動的に1～13までが生じます。世界はこのように、一元に戻れる状態で生み出されるので、あなたが自分という存在を定義づけたときに、自動的に世界のすべてが生じます。世界にあなたの情報をわざわざ伝達する必要はありません。

普段のあなたは顕在意識です。つまり、部分を認識する存在です。すると、1～13までのなにかを選択し、次々に選択を変えると、必ず二回り目をしなければいけません。世界は、あなたが顕在意識を持ったときに、すべての選択肢が誕生しているので、閉宇宙となります。とすると、あなたは長く存在しているうちに、必ずぐるぐると回ることになります。こうして、世界は回転を始めるのです。

時間が流れ始めると、その流れと直角に空間が生じます。思考の量が少ないものが遠くに、多いものが近くに存在するので、時間を中心にそのルール通りに並ぶことで、空間が生じます。そして、時間は縦軸を動いていきます。

あなたの潜在意識は太陽のように中心にあります。顕在意識は惑星のようにまわりを回っています。顕在意識は部分なので、選択を繰り返すからです。つまり、それは円周上を動くということです。

あなたが遠い空間にあると思っているものは、実は二次元のシミです。しかし、それを遠い空間にあるように思っているため、その隙間の空間は真空になります。本当はただ不連続なのです。何もない真空でも、そこをじっと見ていれば、自分のまわりの空間のエネルギーを投影し始めるので、エネルギーが湧くように思えます。こうして、宇宙はエネルギーに満ちているように思えます。これは錯覚です。

あなたという存在は、あなたの思考の集まりです。つまり、あなたを創り出す思考の量が100%だとすると、あなたを頂上として、思考のエネルギーは山の形になります。

100%以外のエネルギーは、あなたのまわりの人となってまわりに現れます。まわりの人とは、あなたと型の組み合わせと量が違う、つまり選択が違う人です。それをパラレルワールドと呼びます。

顕在意識のあなたと、まわりの人を全部足せば、それはあなたの顕在意識と潜在意識を合わせたもの、つまり全意識となります。

スピードが速いと時間が遅れるというのは錯覚による勘違いです。自分が存在する場所

は、直接感覚の量で時間を認識するので、時間が遅れることはありません。もちろん、空想しているあいだは意識が速いので、そのときは時間が長く（つまり、遅く）感じられます。それは夢を見ているときと同じことです。

近代アメリカと中世ギリシャは、時代が違いますが同じものです。このように、エネルギーは使い回しをしています。状態が変わったものを、あなたは別の名前と呼んでいます。そのため、同じものの変化だということに気づきません。時間的な違いが、別の存在を創り上げています。この世界の存在は、実はそんなに多くないのです。人口さえも70億人というのは、錯覚です。自分から離れたところは、人口が増えるように見えます。

空間上を移動することで、私たちは自分の過去や未来を体験することができます。また、自分の未来を空間上で観察することができます。私たちの動きは一つの数式によって決められており、大枠は変わりませんが、数字の代入を変えることで分量を変更できます。つまり、未来を変更できるのです。

私たちは自分から発信したものを世界に見ることが出来ます。もし、自分の身体の機能を二分割し、次にまた二分割し、どんどん部分に分けたとしましょう。そして、それがまた、自分に近い順に山の形に並びます。こうして、生物学的な進化の順として生物が並んでいるように見えるのです。人間は動物から進化したのではなく、意識の集合体である人間の意識を、分割して投影したのが人間以外の生物なのです。

脳の発達の順番とされている時間の流れは、世界地図に投影されています。アフリカからヨーロッパ、アジア、アメリカという順番で人間が移動したと思われるものも、実は脳の発達の投影です。世界地図の形は、脳を示し、それはさらに意識に組み込まれた型を示しているのです。

星は、一番最初の意識の誕生です。まるでマンデルブローの数式のように、点から始まり、それがどんどんと図形を描き、私たちの世界を描き出します。星座はその最初の基本的な型です。この型が性格を生み出すので、星座に性格を読み取ろうとするのです。

物理学者の皆さん、これまでおつきあい、ありがとうございました。FP理論が、みなさんの研究のヒントになれば幸いです。みなさんが物理学に革命を起こす日を楽しみにしております。

またいつかお目にかかりましょう。